



用語解説

	用語	解説
A Z 行	AI	AI とは、「Artificial Intelligence」の略語。 人工知能のこと。一般的なイメージとして、人間に代わって計算・判断を行う高性能なコンピューター又はそのためのソフトウェアや、知能があるかのように振る舞うことができる人工物といったものが広がっている。
	DX	DX とは、「Digital Transformation」の略語（英語圏の表記では、「Trans」を「X」と略すことが一般的であるため、DX となる。）。 AI や 5G 等のデジタル技術を活用して商品やビジネスモデル、業務を変革すること。
	ICT	ICT とは、「Information and Communication Technology」の略語。 情報通信技術のこと。同義語として、IT（Information Technology の略語）があるが、本市では、情報通信技術の利活用を推進する上でのコミュニケーションの重要性を明確にするため、コミュニケーション（Communication）の頭文字 C が入った「ICT」を使用している。
	IoT	IoT とは、「Internet of Things」の略語。 モノのインターネット。自動車等の乗り物や製造機械、冷蔵庫等の電化製品、農地、牧場の牛など、あらゆるものをネットワークに接続することで、それぞれの最新状態を示すデータを集め、その分析からより最適な状態に導くように帰還させる一連の流れのこと。
	OJT	OJT とは、「On the Job Training」の略語。 実際の職務現場で業務を通して行う教育訓練のこと。
	PFI手法	PFI とは、「Private Finance Initiative」の略語。 民間の資金と経営能力・技術力を活用し、公共施設の設計・建設・改築や維持管理・運営を行う公共事業の手法のこと。
	SNS	SNS とは、「Social Networking Service」の略語。 人と人との社会的な繋がりを維持・促進するためのインターネット上のサービスのこと。スマートフォン・パソコン等で閲覧・利用できる。
	Society5.0	狩猟社会（Society1.0）、農耕社会（Society2.0）、工業社会（Society3.0）、情報社会（Society4.0）に続く、新たな社会のこと。第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱されている。Society5.0 で実現する社会には、IoT で全ての人とモノがつながり新たな価値が生まれる社会や、ロボット技術で人の可能性が広がる社会等がある。

	用語	解説
あ 行	アセットマネジメント	投資用資産の管理・運営を実際の所有者・投資家に代行して行う業務のこと。1990年代からインフラ資産に対して使われるようになり、道路、橋りょう、水道、ガス、下水道等のインフラ資産を安定かつ効率よく管理・運営するための手法として用いられている。
	維持管理費	日常の下水道施設の維持管理に要する経費のこと。具体的には、人件費、動力費、薬品費、施設補修費、管きょ清掃費など。
	イノベーション	技術革新、新機軸。科学的発見や技術的発明を洞察力と融合し発展させ、新たな社会的価値や経済的価値を生み出すこと。
	インフラ	国、地域が経済活動や社会生活を円滑に維持し、発展させるために必要となる基礎的な施設のこと。道路、上下水道、通信手段、港湾施設、教育・衛生施設等がある。
	雨水幹線	雨水を排除するための主要な管きょのことで、雨水を排除することができる地域の面積が20ヘクタール以上のもの。
	雨水滞水池	合流式下水道の地域において、未処理の下水が川や海に流れ出るのを防ぐため、大雨により増加した下水を一時的に貯める施設のこと。貯めた下水は晴天時に水資源再生センターへ送って処理する。
	雨水貯留タンク	屋根に降った雨を一時的に貯めて、植木や庭への散水など、生活用水として利用するための貯留槽のこと。雨水貯留タンクを設置することにより、雨水を有効活用することができるほか、大雨の時は下水道や河川への雨水の流出を抑え、浸水対策にも寄与する。
	雨水貯留池	雨水排水施設の能力不足を補うため、雨水の一部を一時的に貯める浸水対策施設のこと。
	雨水流出抑制	大雨時に下水道や河川への雨水の流出を抑え、下水道や河川への負担を軽減すること。雨水流出抑制施設として主に、雨水を一時的に貯留する貯留施設(貯留槽や貯留池、調整池等)と雨水を地中に浸透させる浸透施設(雨水浸透ますや雨水浸透トレンチ等)がある。
	雨天時浸入水	雨天時の地下水位上昇等に伴い、汚水系統に流入する地下水や、マンホールふたの穴や汚水管への誤接続等によって、汚水系統に流入する雨水のこと。
	栄養塩類	植物プランクトンや海藻が増殖するために必要な物質のこと。窒素、リン等がある。

	用語	解説
あ 行	汚水幹線	枝線から汚水（人間生活又は生産活動等の事業に起因して生ずる排水）を取り込む主要な管きよのこと。
	汚水処理人口普及率	本市下水道事業における下水道等の整備状況を表す指標で、市全体の人口に対して下水道等が整備され汚水処理ができる区域の人口の割合のこと。
	温室効果ガス	赤外線を吸収し、気温の上昇（温室効果）をもたらす気体のこと。二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素等がある。
か 行	管更生工法	道路を掘り返すことなく老朽化した管きよの中に新しい管きよを造る工法のこと。
	官民連携	行政と民間が連携して、それぞれお互いの強みを生かすことによって、最適な公共サービスの提供を実現し、地域の価値や住民満足度の最大化を図るもの。
	共助	住民、地域社会、行政の役割分担に関する考え方で、共助（地域の役割）は、自分だけでは解決や行うことが困難なことを周囲や地域が協力して行うこと。
	緊急輸送道路	地震直後の緊急輸送を行うために、地域防災計画において指定された輸送路のこと。
	下水汚泥	下水を処理した結果排出される汚泥のこと。
	下水道BCP	BCPとは、「Business Continuity Plan」の略語。 下水道事業継続計画のこと。下水道施設が災害等により予期せぬ被害を受けた場合を想定して、下水道機能の継続、早期回復を図るための計画。非常時対応計画、事前対策計画、訓練・維持改善計画から構成される。
	下水熱	下水水温と外気温の温度差エネルギーのこと。管きよを流れる下水の水温は、一般的に外気温よりも「夏は低く、冬は高い」という特長がある。
	下水バイオマス	下水処理場から発生する汚泥中に含まれる生物由来の有機性資源のこと。下水バイオマスは、バイオガスや固形燃料としてエネルギー利用されているほか、肥料として緑農地等で利用される。
	公共下水道	主として市街地における下水を処理し、きれいにして川や海に放流するために地方公共団体が管理する下水道のこと（国土交通省所管）。
	公共用水域	河川、湖沼、港湾、沿岸海域など、公共の用に供される水域のこと。
	公助	住民、地域社会、行政の役割分担に関する考え方で、公助（行政の役割）は、個人や地域など、民間の力では解決できないことを公共（公的機関）が行うこと。

	用語	解説
か行	高度処理運転	水資源再生センターにおいて、通常の有機物除去を主とした高級処理で得られる処理水質以上の水質を得る目的で処理する運転のこと。主に窒素やリンを除去する。
	合流式下水道	汚水と雨水を同一の管きよで排水する形式の下水道のこと。汚水と雨水を別々の管きよで排水する形式の下水道のことは分流式下水道という。
さ行	市営浄化槽	し尿と生活雑排水を併せて処理する施設のこと。市が管理するもの(環境省所管)。
	市街化区域	都市計画区域のうち、市街地として積極的に開発・整備する区域で、既に市街地を形成している区域及びおおむね10年以内に優先的かつ計画的に市街化を図るべき区域のこと。
	自助	住民、地域社会、行政の役割分担に関する考え方で、自助(個人の役割)は、自分の責任で、自分自身が行うこと。
	止水板	道路上にあふれた雨水が敷地内に浸入することを防止するため、豪雨時に建物出入口等に設置するもの。止水板には、板状やシート状など様々な種類があるほか、土のう等と比べて短時間で設置できるという特徴がある。
	し尿	人の体から排せつされる大便と小便のこと。
	遮集管きよ	合流式のポンプ場から放流される汚水混じりの雨水を削減するために、ポンプ場から水資源再生センターに下水を送水する管きよのこと。
	修景用水	噴水、人工の滝、ディスプレイ用水等の水遊びをしない施設に用いる水のこと。
	集約型都市構造	市街地の無秩序な拡大を抑制し、公共交通にアクセスしやすい場所に居住機能、医療・福祉など、生活サービス機能等を集積させる都市構造のこと。
	循環型社会	廃棄物等の発生抑制や資源の循環利用、廃棄物の適正処理により、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り低減される社会のこと。
	消化ガス	汚水処理の過程で発生するメタンガスを主成分とするバイオガスのこと。
	親水空間	水や川に触れることで水や川に対する親しみを深める空間のこと。

	用語	解説
さ 行	浸水(内水)ハザードマップ	大雨が降った場合に発生する浸水の想定区域と避難場所を明示した地図のこと。自分の住んでいる場所等がどの程度浸水するおそれがあるかを把握し、日ごろから浸水に備えることにより浸水被害の軽減を図る目的で作成する。
	水質環境基準	環境基本法に定められている、人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい水質汚濁に係る基準のこと。
	ソフト対策	ハード対策に対して、制度等の「モノづくりの仕組み」や「モノの利活用」の面からの対策のこと。
た 行	耐震化	大規模な地震が発生した場合でも、下水道施設の機能が確保できるように、建物の壁・柱の補強や管きょ継手部への補強等の対策を行うこと。
	耐水化	河川氾濫等の水害が発生した場合でも、下水道施設の機能が確保できるように、機械及び電気設備がある施設に止水壁や防水扉を設置する等の対策を行うこと。
	台帳データベースシステム	管路施設、ポンプ場、水資源再生センター等の位置、構造、仕様及び設置時期に加え、点検・調査や修繕・改築、要望対応等のあらゆるデータを一元して管理するシステムのこと。
	耐津波化	津波が発生した場合でも、下水道施設の機能が確保できるように、建物の補強や機械及び電気設備がある施設に止水壁や防水扉を設置する等の対策を行うこと。
	耐用年数	地域特性や使用条件等により、次第にその機能が減少し、通常の維持補修を行っても使用に耐えきれない状態になるまでの期間のこと。
	脱炭素社会	温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と吸収源による除去量との間の均衡が達成された社会のこと。
	地域バイオマスステーション	地域バイオマス(生ごみ、刈草、家畜排せつ物、食品系廃棄物、し尿及び浄化槽汚泥など地域で発生するバイオマス)と下水バイオマスを集約し、再生可能エネルギーを生成する施設のこと。
	特定環境保全公共下水道	公共下水道の一種であり、市街化区域外にある農村部の生活環境の改善や湖沼等の自然環境の保全を目的として整備される下水道のこと。

	用語	解説
な 行	200 万人広島都市圏構想	本市の都心部からおおむね 60km の圏内にある、経済面や生活面で深く結び付いている圏域内の 25 市町（広島広域都市圏を構成する市町）が地域の資源を圏域全体で活用する様々な施策を展開することで、圏域経済の活性化と圏域内人口 200 万人超の維持を目指すという構想のこと。
	農業集落排水	農業振興地域の污水等を集約して処理するもの（農林水産省所管）。
は 行	ハード対策	施策の目的を達成するために施設を建設するなど、「モノをつくる」対策のこと。
	バイオガス	バイオ燃料の一種で、生物の排せつ物、有機質肥料、生分解性物質、汚泥、汚水、ごみ、エネルギー作物等の発酵、嫌気性消化により発生するガスのこと。
	光ファイバーセンシング技術	光ファイバーを利用して、振動・温度・音等を測定する技術のこと。
	包括的民間委託	民間の創意工夫が活用できるよう、複数年にわたり複数業務を包括して発注する委託方式のこと。下水道分野では維持管理業務に用いられている。
	ポンプ場	汚水や雨水をポンプで強制的にくみ上げる施設のこと。
ま 行	マネジメントサイクル	日常的に繰り返される手順のこと。目的を達成するために、多角的な計画を策定し、計画通りに実行できたのかを評価し、次期への行動計画へと結びつける一連の流れである。
	マンホールカード	下水道の広報を担う「下水道広報プラットフォーム」が、マンホールふたを管理している地方公共団体と協力して制作するカードのこと。市民等に無料で配布することで、楽しみながら下水道に興味を感じてもらうことを狙ったカード型下水道広報ツールとして企画された。
	マンホールトイレ	災害用仮設トイレが設置可能な下水道施設のことであり、主に避難所の屋外に埋設されている。
	水資源再生センター	下水道終末処理場のこと。本市では水資源再生センターと呼んでいる。
	モニタリング	状況を監視して把握すること。委託業務においては、契約書や仕様書、提案書等の要求事項を充足しているかの確認を行う。
や 行	豊かな海	水質が良好な状態で保全され、生物多様性や生物生産性が確保されるなど、様々な価値や機能が最大限に発揮された海のこと。

	用語	解説
ら 行	流域治水	気候変動による水災害リスクの増大に備えるため、河川・下水道管理者等による治水に加え、あらゆる関係者（国・都道府県・市町村・企業・住民等）により流域全体で行う治水のこと。
	露出配管	地上に露出させて整備する管きよのこと。通常、管きよは道路機能の確保や管きよの損傷防止のため、地下に埋設する。